

2017年8月6日(日)朝10:10

主の聖霊降臨節第10、オリーブ会等

8月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**7つの金の鉢；第6の金の鉢：**

**ハルマゲドンの戦い**

聖書：ヨハネの黙示録 16章12～16節

＜口語訳＞

新約聖書402頁

ヨハネの黙示録 16章12～16節

＜新共同訳＞

新約聖書470～471頁

ヨハネの黙示録 16章12～16節

＜新改訳第3版＞

新約聖書494頁

ヨハネの黙示録16章12～16節

＜塚本訳＞

新約聖書810～811頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、神の恵みの啓示と審判、主の即位と24人の長老の神礼拝、女性、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉格納、神の怒りの葡萄刈り、酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血海、4～7節は、血水、8～9節は、太陽炎焼、10～11節は、獣の座の暗黒による裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章12～16節は、神の怒りの第6の金の鉢の注ぎ、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)、第1、第2の獣と主なる神との最終決戦の預言です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第16章12～16節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録16章12～16節；ヨハネは、第6の金の鉢の大河ユーフラテスへの注ぎとハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)軍団との主なる神との最終決戦による裁き施行を見ます。

◇16:12～16；塚本訳◆第六金の鉢—ハルマゲドンの勢揃い

「12 第六の天使がその鉢を大ユーフラテス河の上に注いだ。するとその水が(皆)涸れてしまった。それは太陽の出る方から来る王達に道を備えるためであった。

13 また私は(サタンである)竜の口からと、(反キリストである)獣の口からと、(その手先である)偽預言者の口から、蛙のような(格好をした)三つの穢れた霊が出て来るのを見た。

- 14 これら(の蛙)は(不思議な)徴を行う悪鬼の靈である。彼らは全能者なる神の大なる日の戦闘のために、全世界の王達を集めようとして出て行く。――
- 15 (主言い給う、)視よ、我は盗人のように来る。幸福なる哉、(絶えず)目を覚まして自分の着物を守っている者！彼は(その時)裸で歩かず、またその恥所を見られない(で済む)からである。――
- 16 彼ら(三つの靈)はヘブライ語でハルマゲドンと呼ばるる処に王達を集めた」と、ヨハネは、大河ユーフラテスへの金の鉢注ぎとハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)軍団との最終決戦による神の裁きを見ました。
- ◇12～14節；「第六の天使がその鉢を大ユーフラテス河の上に注いだ。するとその水が(皆)涸れてしまった。それは太陽の出る方から来る王達に道を備えるためであった」(12)、  
「私(ヨハネ)」は、「(サタンである)竜の口からと、(反キリストである)獣の口からと、(その手先である)偽預言者の口から、蛙のような(格好をした)三つの穢れた靈が出て来るのを

見た」、そして「これら(の蛙)は(不思議な)徴を行う悪鬼の霊である。彼らは全能者なる神の大なる日の戦闘のために、全世界の王達を集めようとして出て行く」との神の幻を見ました

⇒「**第六金の鉢**」が、「**大ユーフラテス河の上**」に「**注がれる**」と、「**大ユーフラテス河**」は、「**その水が(皆)涸れてしまった**」のです。

⇒「**大ユーフラテス河**」が、その河の北の国、パルテヤ国の南下を防いで、その河の南にある国々は、滅びを免れていたのです。

⇒この歴史的な出来事を象徴的に描き、**龍(悪魔・サタン)**が**結集**する機会を得ることを語っています。

⇒次に、「(サタンである)竜の口からと、(反キリストである)獣の口からと、(その手先である)偽預言者の口から、蛙のような(格好をした)三つの穢れた霊が出て来て」、それら「(の蛙)は(不思議な)徴を行う悪鬼の霊で」、「全能者なる神の大なる日の戦闘のために、全世界の王達を集めようとして出て行く」と、語られ、**龍(悪魔・サタン)軍団**が集められるのです。

⇒「**龍(悪魔・サタン)軍団**」は、「**悪鬼の霊**」が、「**(不思議な)徴を行う**」ことで、当時の「**全世界の王達**」が、誘惑されて集められたものです。

⇒「**悪鬼の霊**」は、「**龍(悪魔・サタン)**」、「**獣・王**」、「**獣・偽預言者**」の口から出たもので、「**神なき悪の霊**」そのものなのです。

◇16節 ; 「**彼ら(三つの霊)・悪鬼の霊**」は、「**ヘブライ語でハルマゲドンと呼ばるる処に王達を集めた**」のです。

⇒「**ハルマゲドン**」は、「**ハル**」は、山を意味し、「**マゲドン**」は、「**メギド**」を「**ヘブライ語**」読みに変えたことばですから、「**メギドの山**」という意味になり、ガリラヤ湖と地中海を結ぶ中間地帯の平原をさす場所で、**古戦場**でした。

⇒「**ハルマゲドン**」は、「**古戦場**」の意味を、象徴的に用い、「**主なる神**」と「**龍(悪魔・サタン)軍団・全世界の王達**」との**最終的決戦の場**であることを**預言**しています。

◇15節 ; 「**(主言い給う、)視よ、我は盗人のように来る**」、「**幸福なる哉、(絶えず)目を覚まして自分の着物を守っている者!**」、「**彼は(その時)裸で 歩かず、またその恥所を見られない**

(で済む)から」と、「**主なる神**」のことばが挿入されています。

⇒この挿入によって、**神信仰**に生きる人々への最終決戦に臨む「**神信仰の姿勢**」が問われています。

⇒「**神信仰**」は、宗教改革者が気づいたように、**神の賜物**です。

⇒併し、「**悔い改め**」のない生活へと誘う「**龍(悪魔・サタン)の悪鬼の霊**」が、心の中に侵入していることに気づかないこともあるのです。

⇒**マルチン・ルター**が、死期が迫って来た時、「**敵に渡さなかった**」ことを感謝したのは、**神の賜物としての信仰**が、「**神信仰がない者は亡びる**」と主張する頑固な心に変身する誘惑に勝利する「**神への祈り**」を貫けたからです。

⇒確かに、当時の政治権力を利用して、宗教改革を成し遂げた要因を否定することはできません。

⇒これは、戦争の時も、人間不信が蔓延している今の時代においても、「**神への祈り**」に徹して生きることは、極めて困難です。

⇒「**聖書のみ**」、「**恵みのみ**」、「**信仰のみ**」です!

◆エペソ6章10～20節;パウロは、日々龍(悪魔・サタン)に勝利するために神信仰に生き抜く福音の武具を身につけるように勧めています。

◇6:9～20;塚本訳◆**神の武具を以って武装せよ**

「10 最後に(言う、)主にあって、またその逞しい威力によって強くなれ。

11 悪魔の奸策に対抗し得るよう、神の武具を著けよ。

12 私達の戦いは(この世の)血肉に対するものでなく、「権威」に対するもの、「権力」に対するもの、この暗の世界の主権者(なる悪魔)に対するもの、天上における悪霊(の軍勢)に対するものであるからである。

13 この故に神の武具を執れ。(悪魔が勢力を壇にする)悪い日において彼に抵抗し、凡てを征服してその立場を守り得るためである。

14 だから『腰に真理の帯をしめ、義の鎧を著け、

15 平和の福音の用意を』(靴として)『足に』穿いて立て。



- 16 その上になお信仰の盾を執れ。これで悪者の(投ぐる)凡ての火箭を消すことが出来よう。
  - 17 また『救いの兜』と、『神の言』なる『御霊の剣』を取れ。
  - 18 (最後に祈りで武装せよ。すなわち)あらゆる祈りと願いをもって常に御霊において祈れ。そしてそのため(いつも)目を覚まし、あらん限りの根気をもって聖徒達一同のために祈って居れ。
  - 19 また私のためにも、私が(大きく)口を開いて御言を語り、大胆に福音の奥義を示し得るよう――
  - 20 この奥義のために私は(神の)死者として鎖に繋がれているのであるが――かく繋がれていながらも、語らねばならぬことを大胆に語り得るよう祈っていてもらいたい」と、パウロは、エペソ教会及びアジア地方の教会への祈りと勧めを認めとています。
- ◇ 10～20節；「第六の天使がその鉢を大ユーフラテス河の上に注いだ。するとその水が(皆)涸れてしまった。それは太陽の出る方か

ら来る王達に道を備えるためであった」(12)、  
「私(ヨハネ)」は、「(サタンである)竜の口からと、  
(反キリストである)獣の口からと、(その手先  
である)偽預言者の口から、蛙のような(格好  
をした)三つの穢れた霊が出て来るのを見  
た」、そして「これら(の蛙)は(不思議な)徴を  
行う悪鬼の霊である。彼らは全能者なる神  
の大なる日の戦闘のために、全世界の王達  
を集めようとして出て行く」との神の幻を  
見ました

⇒「悪魔の奸策に対抗し得るよう、神の武具を  
著けよ」、「『腰に真理の帯をしめ、義の鎧を  
著け』、「平和の福音の用意を』(靴として)『足  
に』穿いて立て」、「信仰の盾を執れ」、「『救い  
の兜』と、『神の言』なる『御霊の剣』を取れ」、  
「祈りで武装せよ」と語り、「私のためにも、  
私が(大きく)口を開いて御言を語り、大胆に  
福音の奥義を示し得るよう」、「この奥義の  
ために私は(神の)死者として鎖に繋がれて  
いるのであるが——かく繋がれていながらも、  
語らねばならぬことを大胆に語り得るよう  
祈っててもらいたい」と、祈りを求めている。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、神の恵みの啓示と審判、主の即位と24人の長老の神礼拝、女性、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉格納、神の怒りの葡萄刈り、酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血海、4～7節は、血水、8～9節は、太陽炎焼、10～11節は、獣の座の暗黒による裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章12～16節は、神の怒りの第6の金の鉢の注ぎ、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)、第1、第2の獣と主なる神との最終決戦の預言です。

⇒ヨハネの黙示録16:12～16は、「龍(悪魔・サタン)」、「獣・支配者」、「獣・偽預言者」と「主なる神」との最終決戦、「ハルマゲドン」の日が来ることを預言しています。

⇒不必要な不安や恐怖をあおる必要はありませんが、「龍(悪魔・サタン)軍団の悪鬼」との戦いですから、「神の武具」である「信仰の盾を執り」、「神の言なる御霊の剣を取り」、「祈りで武装する」日々の「霊的生活」、「神の言と祈り」の生活建設こそ、大事なことです。

⇒「龍(悪魔・サタン)」は、「悔い改め」が嫌いですから、「悔い改め」の祈りは、「龍(悪魔・サタン)」の誘惑に勝利する秘訣です。

⇒マルチン・ルターは、キリスト者に讃美を勧め、「讃美を歌うことは2回祈ることに等しい」と語り、彼自身が作詞作曲して、神を讃美することを喜んだのです。

⇒教会の讃美も、祈りとともに大事にしたい。